

萬福寺の行事はどなたでも参加できます。

### 住職就任にあたって

萬福寺住職 安本由道

本年1月8日當山二十六世太真利正大和尚遷化に伴い、3月7日本葬儀に際し檀信徒並びに寺に関わる多くの方々にご香資、ご焼香を賜りましたこと誠に有難く、厚く御礼申し上げます。

1月22日付「本山管長辞令」にて萬福寺住職の任を仰せつかりました。多くの皆様にご指導、ご法愛を賜わりながら今日までお務めをさせていただき、深く感謝申し上げます。檀務の方は従来と変わりはありませんが、代表役員としての任務を果たすため、微力ではありますがまだまだ諸先輩御老師、御寺院様はもとより檀信徒の皆様のお力添えをいただきながら、先代住職の法燈をしっかり引き継いでゆく所存であります。

辞令伝達にあたり3月下旬、宗務庁での首先住職研修会に出席して参りましたが、世の中では目を覆うような犯罪が何故に増え続けるのか？ 仏法をしつ

「衣食足りて礼節を知る。戦後七十年を過ぎ日本の国は素晴らしく発展してきましたが、世の中では目を覆うような犯罪が何故に増え続けるのか？ 仏法をしつ



平成27年度第6回首先住職研修会親授式(平成28年3月30日 安本由道)住職は前から2段目 福山猥下(左)より

### 春彼岸会法要

今年も春風亭柳朝師匠の落語でひと笑い

3月20日(日)、彼岸会法要が営まれました。午後1時から始まった、地元・大森にお住まいの春風亭柳朝師匠による落語独演会では、本堂に用意された約200席はほぼ埋まり、言葉巧みに親をだまして小遣いをせしめる子供の話「真田小僧」、

正直者同士が意地の張り合いから最後は娘を嫁がせる人情話「井戸の茶碗」の2演目に、本堂は笑いに包まれました。午後2時から安本由道ご住職の式師のもと、法要が厳かに営まれました。



## 皆さまの心に寄り添い、共に喜び合える 仏様の心を求めて



福山猥下(写真・右)より辞令を賜わる安本由道ご住職

かりと布教していくことがあなたの方の使命です。

人々は何かが満たされても、満ち足りない心の迷いが節度をわきまえられない行動になるように思われます。

また、宗務庁総務部長から結びに次の一言をいただきました。

「日本の、いや世界でもその名の轟く実業家松下幸之助氏、本田宗一郎氏が何故に成功したのか。それはみんな仲良しだからである……。会社がよくなつていくには従業員を守りその家族が幸せになること。そうならば働くことにも専念でき、会社の中も仲良い環境が生まれ、自ずと繁栄していく。自分の考えだけを押し通すだけでなく、相手のことを理解し寄り添う姿勢が大切である。

る。お寺も繁栄していくには山内みな仲良しであり、快くみなさんが来山できる開かれた環境であり、住職と檀信徒のみなさんが寄り添うことのできる「同時行」でなければなりません。」

年中行事のなかでご先祖様を大切に思い、それぞれの家庭が幸せになり、その人の幸せを喜び合える仏様の心になれることが、将来檀信徒とお寺が繁栄していくことに繋がると信じてやみません。

行き届かないことが多々あることかと思いますが、今後共々ご指導、ご鞭撻、ご法愛を賜わりたく何卒宜しくお願い申し上げます。 合掌

### 花まつり

甘茶をかけて お釈迦様の誕生を祝う

境内の桜の花もまだ咲き残る4月8日(金)、花まつりの法要が執り行われました。この日はお釈迦様のお誕生をお祝いし、屋根や四方を花で飾った花御堂の中に安置したお釈迦様の誕生仏に甘茶をかけて讃仏しました。

参詣者には甘茶の飴が配られました。



### 當山二十六世 太真利正大和尚の本葬儀を厳修

連夜・本葬儀合わせて600名が会葬

去る3月7日(月)、8日(火)、當山二十六世太真利正大和尚の連夜(通夜)、本葬儀が本堂にてしめやかに営まれました。7日の連夜では黄梅院御住職長谷川文浩老師を導師に、配役僧侶20名による數佛の式が行われました。翌8日、本葬儀は午前11時から始まり、弔電披露後、大本山永平寺御專使、本瑞寺御住職洞外文隆老師、河原清彦護持会会長が弔辞を述べ、その後五人の仏事師により執り行われました。最後に、遺弟、安本由道住職が御列席の御寺院様、護持会・檀信徒の皆様へ謝辞を述べ、さらに平林延勝筆頭総代から、太真利正大和尚に哀悼の誠を捧げつつ、今後は安本由道新住職を中心に當山繁栄のため、精進していくとの決意表明があり、本葬儀は滞りなく終了しました。



護持会役員20名が受付と接客 長く純いた会葬者の列(本葬儀を担)



五人の仏事師(本葬儀)